

古賀駅東口 駅前広場の規模と配置について

東西駅前広場整備の基本的な考え方

- ・ JR古賀駅の東西駅前広場整備の基本的な考え方は以下のとおり。

東口駅前広場

現況の機能確保のほか、路上駐車対応や周辺開発・山側への対応を想定しつつコンパクトな駅前広場とする。

バス：現況1台であるが今後の必要性に応じて乗・降で分離ができるよう2台分を確保

タクシー：現況機能を確保

自家用車：身障者用駐車帯を設置、現況駐車場分のほか、路上駐車に対応する停車スペース等を確保

※必要に応じ、1台増やしたバス駐車帯や、自家用車駐車帯等を活用した企業バス・タクシー待機増の対応等を検討

西口駅前広場

東口駅前整備の次のステップとなることを考慮し、将来的な交通の変化にも対応できるよう、現段階ではゆとりを持った規模を想定する。

- ・ 観光等のバス受入れの可能性、オンデマンドバス等の変化する交通手段の受入れ可能性
- ・ 東口整備後、西口に新たに求められる駅前広場空間の可能性
- ・ 企業バスや自家用車利用の将来的な変化の可能性 等

現況と算定の基礎・算定面積（計算上の参考値）

東口駅前広場に求められる機能・面積

- ・ 駅前広場設計指針に基づいた算定に加え、現況機能を確保した場合の東西駅前広場の計算上の参考値は下表のとおり。

東口駅前広場の規模算定（現況機能分の面積を加算した参考値）

項目			東口				備考	
			現況	駅広設計指針		+ 現況確保		
				施設数	面積	施設数		面積
交通 空間 基準 面積	バス	乗降バス	1	2	140m ²	2	140m ²	東口： 第3回策定会議より ※開発による想定駅利用者増加数として800人を算定に加算 ※企業用の送迎バスの乗降は、自家用車乗降バスで行うものとして設定 ※+現況確保では、タクシープール1台増、自家用車乗降バス1台増、自家用車駐車場4台増
		滞留空間	-	-	10m ²	-	10m ²	
	タクシー	乗降バス	1	2	40m ²	2	40m ²	
		滞留空間	-	-	10m ²	-	10m ²	
		タクシープール	4	2	60m ²	3	90m ²	
	自家用車	乗降バス	0	4	80m ²	6	120m ²	
		駐車場	4	0	0m ²	4	120m ²	
	身障者用	駐車場	0	1	20m ²	1	20m ²	
	車道面積		-	-	970m ²	-	970m ²	
歩道		-	-	240m ²	-	240m ²		
環境空間面積（歩道除）			-	-	1,100m ²	-	1,280m ²	
合計			1,050m²	2,670m²	3,040m²			



算定した面積は計算上の参考値であり、2,670m²～3,040m²の間に収まるよう、諸施設の配置を検討して実際の面積を決定

[参考] 西口の現況

駅前広場の現況・施設量

- ・ JR古賀駅西口駅前広場の現況の機能・規模は下図及び下表のとおり。
- ・ 現況駅前広場は形状等により、効果的・効率的な配置を行うことが難しい。

JR古賀駅西口駅前広場の現況と施設量



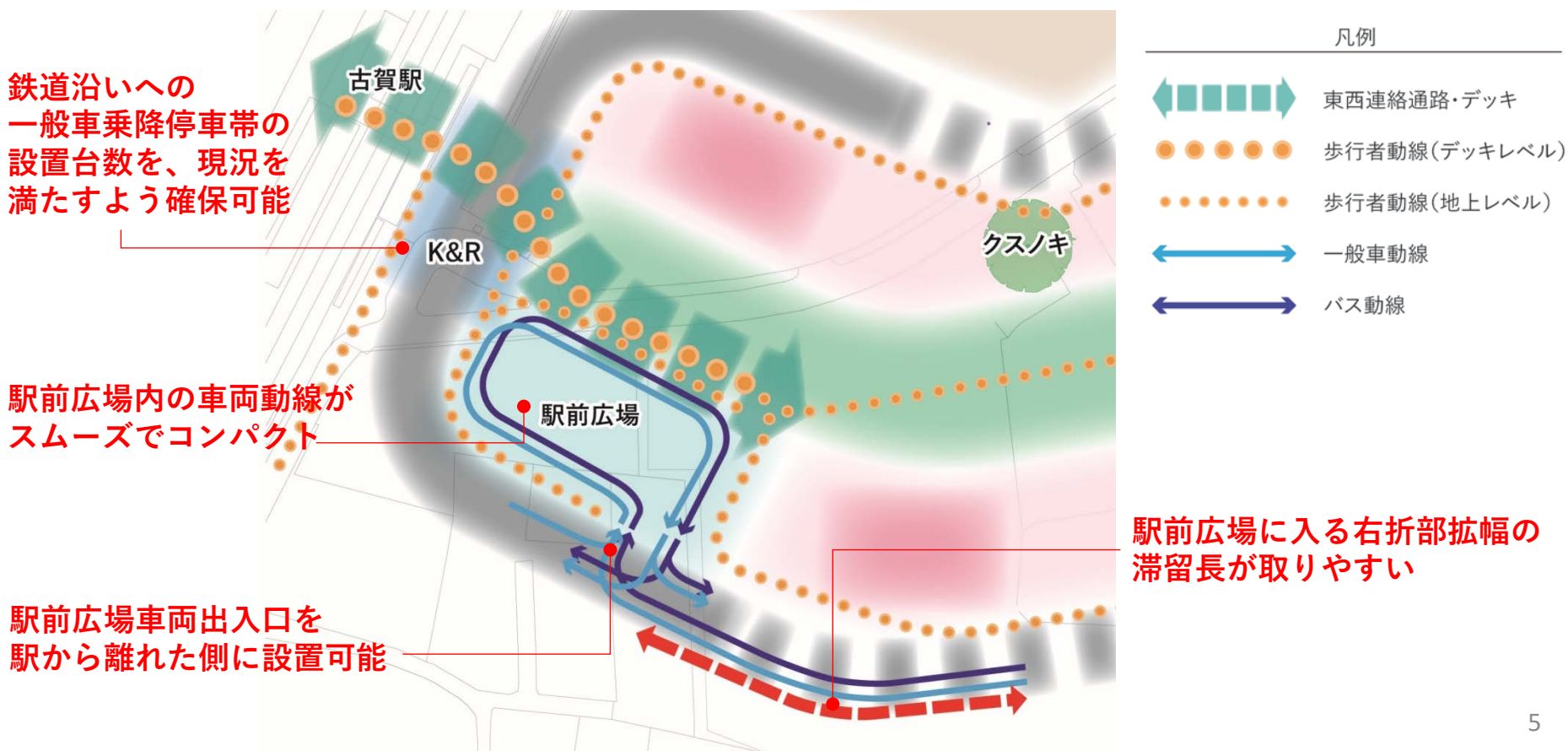
区分	現況	備考
規模	2,800㎡	道路部分1,170㎡を含む 現都市計画決定面積2,400㎡
バスバース	1	乗降バース
タクシー乗降	1	
タクシープール	6	
乗用車駐車場	0	
駐輪場	—	広場に面して駐輪場が設置
その他		歩道・ふれあい広場

現況の機能・規模を参考にしつつ、社会情勢の変化にも対応できるよう、余裕をもった駅前規模とし、検討を進めていく。

駅前広場の形状と配置

南側-出入口集約パターン

- ・ 駅前広場出口でバス車両が道路に正対しやすく、駅前広場面積をコンパクトに抑えることが可能
- ・ 駅前広場車両出入口を駅から離れた側に設置でき、鉄道沿いへの一般車乗降停車帯の設置台数を現況停車台数を満たすよう確保が可能



駅前広場の形状と配置

南側-出入口集約パターン（第3回策定会議提示パターンを基に作成）

- ・ 駅前広場出口でバス車両が道路に正対しやすく、駅前広場面積をコンパクトに抑えることが可能
- ・ 駅前広場車両出入口を駅から離れた側に設置でき、鉄道沿いへの一般車乗降停車帯の設置台数を現況停車台数を満たすよう確保が可能

